

顎，顔面補綴の一症例について*

歯科補綴学第一教室 橋本京一

歯科補綴の中でも，顎補綴と顔面補綴は特殊な条件をもっているため，満足できるような良い結果をもたらすことは極めて困難な場合が多い。

1. 顎補綴の特異性

- 1) 欠損が広範囲
- 2) 障害の程度が大
- 3) 強い瘢痕収縮のあることが多い。
- 4) 年齢は高く，抵抗の弱いことが多い。
- 5) 症例ごとに条件が著しく異なる。
- 6) 顎補綴物の製作時期は術後6～8週間頃がもっともよい。
- 7) 解剖学的形態および生理学的機能の回復が必要である。

2. 顎補綴物の維持の困難性

- 1) 接着……面積の減少が大きい。
- 2) 吸着……周縁閉鎖が十分出来ない。
- 3) 重量……かなり重くなり，しかも左右不均衡。
- 4) 添窩……利用出来ないことが多い。
- 5) 咬合，咬交の均衡……不均衡になり易い。
- 6) 軟組織の欠損，瘢痕等による維持圧の不均衡

3. 顎補綴の一般的手順

- 1) 概成印象用トレーの作製
- 2) 本印象用トレーの作製
- 3) 本印象採得，作業模型調製
- 4) 基礎床，咬合堤の作製。
- 5) 人工歯の選択，排列，試適。
- 6) 発音テスト。
- 7) 蟻義歯の仕上げ。
- 8) 蟻義歯の埋没，流蟻，重合，研摩。
- 9) 補綴物肥厚部分の中空操作。

- 10) 顎義歯の口腔内試適。
- 11) 顔面印象用トレーの作製。
- 12) 顔面の印象採得と模型調製。
- 13) 顔面欠損部の補綴物作製。
- 14) 顔面の色合せ。
- 15) 眼球，睫毛の選択，試適。
- 16) 顔面補綴物の完成。
- 17) 義顎と顔面補綴物との連結操作。
- 18) 全補綴物の完成。
- 19) 試適，装着練習，取扱い指導。
- 20) 装着。
装着後一定期間ごとに観察を続ける必要がある。

4. 本症例の患者について（74才の女性）

1) 既往歴

- ① 昭和39年頃より，多量の鼻汁に悩まされるようになり，塩尻市内の某耳鼻科医にて肥厚性鼻炎と診断され，手術を受けたが症状は軽快しなかった。
- ② ひきつづいて，内科医の診察を受け，内服薬の治療で，一旦軽快したが2か月位で再び多量の分泌物を見るようになった。
- ③ さらに，右眼の視力が著しく低下してきたので，昭和40年秋に信州大学医学部付属病院を訪れ眼科で診察を受けたところ，病名は告げられずに眼球摘出の必要ありと診断された。
- ④ 昭和40年12月，同上耳鼻科にて，右側眼球の摘出と同時に上顎骨（右側）の切除手術を受け，50日間入院していた。入院中発熱その他特記症状なし。
- ⑤ 術後約1か年経過してから，松本市内の某歯科医院にて上顎の顎義歯と下顎の総義歯を製作。

* 第6回，昭和48年5月25日開催

⑥ 昭和43年頃（術後3年目）左眼の白内障の手術を受けたが視力は回復せず、眼鏡着用により僅かに矯正されている。

⑦ 眼球摘出、上顎骨切除の手術後、聴力は左右側とも減退した。

2) 現症

① 栄養、体格、中等度にして貧血状態はない。

② 血圧160mmHgで現在降圧剤使用中。

③ 顔面および頸部の淋巴腺腫張はない。

④ 顔面は右側の眼球摘出および上顎骨切除手術の結果左右非対称。

⑤ 開口程度は前歯部で約1横指、現在使用中の顎義歯は極めて脱落し易く、摂食、談話に著しく障害あり。

⑥ 前頸部に気管切開手術による瘢痕を認める。

⑦ 手術創治癒部よりの再発病巣は肉眼では認められない。

⑧ 口腔と鼻腔の通路となっている空洞の鼻腔壁に発赤部分を認める。

3) 顔面補綴物（眼球および皮膚）に用いた材料

① ハイドロキャスト

（Tissue Treatment and Functional Impression Material）

② 固形白粉、マイクロバフNo.23（ポーラ化粧品）

③ カバーマーク（オリリー社の油性ファンデーション系顔料）

ページュ 3号

ナチュラル 3号

ラッセル 1号

④ ルージュ（資生堂、オレンジ系）

⑤ 粉白粉コーラルNo.2（オリリー社の Finishing powder）

⑥ アイラッシュ（睫毛）

⑦ 黒色の眉墨

⑧ 合成樹脂製義眼（日本義眼研究所製）

WR44S（二重瞼、右側、紅彩は標準色）

⑨ 連結装置

5. 製作に際して苦勞した点

1) 印象採得

① 概形印象採得

② 印象材料の選択

③ 最終印象採得

2) 咬合採得

① 基礎床の維持安定

② 左右側の非対称による錯視

③ 中心位の確定

3) 補綴物の重量と維持

4) 眼球および顔面補綴物と義歯との連結

5) 機能回復の質と量

（食物摂取、咀嚼嚥下、発音談話等）

6) 外観の回復

① 顔面欠損補綴物の形態、色調

② 眼球、睫毛等の埋入、付着

③ 左右非対称の回復

7) 患者の期待に対する報い方。

とくに顔面補綴物と、顎補綴物（上顎）との連結には強力なマグネットを用いて吸着するように設計した。

6. 結果

外観および、機能はかなり回復できて、患者の要求はほぼ満たされた。